

教界ニュース

# 「危機の時代の宣教協力」新た

## JEA総会 震災対応に焦点

日本福音同盟(JEA、品川謙一総主事)は第26回総会を6月6〜8日、静岡県掛川市のヤマハリゾート・つま恋で開催、東日本震災からの救援・復興に向けた取り組みなどを主とする2011年度活動計画案を決議した。総会プログラムも震災に対応、被災地から「キリスト者の証言」を聞き、新たな危機の中で宣教(教会)協力をどう進めていくのかを話し合った。

「東日本震災キリスト者の証言をしたのは、教会協力による地域社会への救援・復興の動きと課題などを聞いた。09年9月に札幌で開催した第5回日本伝道会議(JCEG)のテーマ「危機の時代における宣教協力」をどう進めていくのかについて話し合った。JEAでは3月25日に中台孝雄援助協力委員長を委員長とする「JEA東日本震災対策室」を設け、被災地への視察を経て4月理事会で4人の理事を加えた対策室プロジェクトチームを発足させ、キリスト教会、JEA、A援助協力委員長(両氏が発題)、「新たな危機の時代」の認識を共有し、救援・復興活動に取り組むに限定される。②超教派の救援・復興活動(主に被災教会が所属する教団・教派)。地域的には各教団・教派の教会がある場所に限られる。③超教派の救援・復興活動(主に被災教会が所属する教団・教派)。地域的には①でカバーされていない地域に支援をしていきたい。④協力会員である各教団・教派による救援・復興活動。

トワーク代表)の各氏。

## 被災地証言受け 実を結ぶ協力討議

た。2011年度活動計画では、救援・復興の取り組みを次の3つの流れを柱として進めていく方針。①各教団・教派による救援・復興活動(主に被災教会が所属する教団・教派)。地域的には各教団・教派の教会がある場所に限られる。②超教派の救援・復興活動(主に被災教会が所属する教団・教派)。地域的には①でカバーされていない地域に支援をしていきたい。④協力会員である各教団・教派による救援・復興活動。

おいてはJEMA(日本福音同盟)との協力関係の中でクラッシュ・ジャパンと連携し、ボランティア活動を推進。同本部および地域拠点に奉仕者を派遣し、地域教会との連携をはかりながら諸教会を支援する。③においては救援団体と共にボランティア・トレーニング・セミナーなどを適宜開催する。また国内外

本青年伝道会議を開催する予定で青年委員会を中心に準備が進められている。JCEGの開催候補地として神戸が挙げられ、理事会のもとにJCEG準備室が調整を進めている。JCEGのテーマや理念、プログラムについては今年度中に各専門委員会から提言を受け、来月10月に開催される。田が10月に開催される。12年9月には「第1回日性を出したい」としている。

はたせるように」と祈りを呼びかけた。続いて報告した木田さんは、岩手県内で被災。その後、沿岸部の支援活動に参加している。出身地は福島県。原発を有する土地としての葛藤を話した。途中言葉に詰まり、沈黙した。会場でも涙ながらに話を聞く学生たちの姿があった。「個人的な交わりの中でも、多くの人が静かに手を合わせ、祈り祈ってくれました。あの静かな真剣に思ってくれる仲間たちの目を忘れることができません」。高橋さんは、参加前は「神様についていくことが不安や葛藤があった」。しかし「ハガイ書の神殿再建から、自分自身の信仰の再建を考えさせられた」。今勉強が楽しいという。「伝道だけでは大学に追いついていく意味の半分。勉強するために遣わされている。勉強も神様の国を建てる働きと思えます」。木田さんは「完全な共感や理解は難しいが、相手の言葉に耳を傾け、怒り・悲しみ・苦しみに寄り添うことはできる。大学・バイト先・教会・KGK・被災地の支援など、神様に遣わされた地に住む人々に寄り添い、いつも心を注ぎだして祈りたい」。そして「アジアの隣人を大切にしていきたい。この応答を『いつか』ではなく『今』するのだと、強く心に語られています」。

## 新理事長に安藤能成氏



第26回日本福音同盟総会では、新理事長に安藤能成氏(日本福音同盟副理事長、世田谷中央教会牧師)を選出した。昨年

総会で可決した規約の改正により、今総会では12人の理事全員を新たに選出した。理事長および副理事長の任期は3年、連続2期まで。理事は以下のとおり。安藤能成(日本福音同盟副理事長、世田谷中央教会牧師)、井貫(アッセンブリー、

今総会中、昨年10月に南アフリカで開かれた第3回ローザンヌ世界宣教会議について、日本ローザンヌ委員会(金本悟委員長)が報告。JEA宣教委員会から同会議に派遣された末松隆三氏は10年度活動報告で「世界宣教に関する情報源、また『宣教の神学』を構築する上で、WEA(世界福音同盟)JEA(加盟)と共にこのチャネルは重要」との考えを示した。

「しかしやはり、震災と、その後起こったことは思ってもいない展開でした。すべては、突然異常停止するクラッシュから始まり、何とか生き延びるサバイバル逃避行。気がつくとも私たちは生かされる地に抱かれていました」。3月11日午後2時46分、大地を揺るがした大災害は、地震・津波・原子力発電所事故という三重苦をもたらした。事故現場から5キロ以内にはあった福島第一聖書バプテスト教会。この神の共同体は先行きが見えない流浪の教会となった。緊急出版された『流浪の教会』(佐藤彰著、いのちのことば社)には、牧師が災害発生直後から散り散りになった教会員に発信した涙のメッセージが込められている。巨大地震災害によってもたらされた衝撃は、クリスチャンの在りかた、信仰、そして教会の存在意義そのものを根本から問うものとなった。◆流浪の教会の牧師は語っている。私たちは今すべてが剥ぎ取られ、日常の一切が無くなりました。そして、必要なものは、そんなにたくさん無いことを知りました。本心で大切なものは、キリストとお互いの結びつきです」。



和装で活動紹介をするKGKの学生たち

## 国際福音主義学生連盟 東アジア大会

### 現代社会で神の国を建てる 「東北再建に責任果たせるよう祈って」

国際福音主義学生連盟(IFES=International Fellowship of Evangelical Students)の東アジア地区大会(EARCE=East Asia Regional Conference)が5月25日〜31日、シンガポール国立大学で行われた。テーマは「Wake Up and Dream! The Time Is Now(目を覚まし、夢を今見よう)」。今そのとき

を途中でやめたイスラエル人に語りかける。クオ氏は「再建をやめた人は人間中心だった。私たちも優先順位が神様にあるか」と問いかけた。

木田友子さん(岩手大学4年)は、出発前に日本の戦争責任が書かれた『アジアのキリスト者とともに』(大田和功一著)を読んだ。「自分の知っていることができない痛みを持つ

高橋さんも海外の学生

だ。現代的な価値観から目を覚まし、聖書的価値観に生きよう、という趣旨。東アジア内外21か国から約600人が参加。日本からはキリスト者学生会(KGK)の学生・主事37人が参加した。聖書講解はクオ・ツイ(シンガポール、聖書神学大学院講師)。ハリスト者、過激主義への「応答」。分科会では環境

を途中でやめたイスラエル人に語りかける。クオ氏は「再建をやめた人は人間中心だった。私たちも優先順位が神様にあるか」と問いかけた。

高橋さんも海外の学生

高橋さんも海外の学生